

資料2  
令和5年7月13日  
第3回瑞浪市教育振興基本計画推進委員会

**第2期瑞浪市教育振興基本計画  
みずなみ教育プラン  
-基本構想-  
(案)**

**令和5年7月  
瑞浪市 教育委員会**



# 目次

<b>第1章 計画策定にあたって</b> .....	<b>3</b>
1 計画策定の趣旨.....	3
2 計画策定の位置づけ.....	4
3 計画期間.....	4
4 SDGsの取り組み.....	5
<b>第2章 瑞浪市の教育における現状と課題</b> .....	<b>9</b>
1 教育における現状.....	9
2 市民意識調査結果.....	16
3 教育に関する団体ヒアリング.....	37
4 教育における課題.....	41
<b>第3章 基本構想</b> .....	<b>49</b>
1 基本理念.....	49
2 基本目標.....	50
3 目指す子どもの姿、市民の姿.....	51
4 基本的視点.....	51
5 基本構想の概念図.....	52
6 施策の体系.....	53
<b>第4章 基本計画</b>	
基本目標 1 たくましく生きる基礎を育てる 学校教育・就学前教育の推進	
基本目標 2 とともに学び支え合う社会教育の推進	
基本目標 3 誰もが気軽にスポーツに親しめる 生涯スポーツの推進	
基本目標 4 郷土愛を育む文化・芸術の振興	
<b>第5章 計画の推進に向けて</b>	
1 推進体制	
2 計画の進行管理と見直し	
<b>資料編</b>	
1 瑞浪市教育振興基本計画推進委員会	
2 第2期計画までの経緯	





## 第1章

# 計画策定にあたって



## 第1章 計画策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

瑞浪市教育委員会では、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成26年（2014年）に「瑞浪市教育振興基本計画～みずなみ教育プラン～」(以下「第1期計画」という。)を、また、平成31年（2019年）に中間見直しを行い、後期基本計画（以下「後期計画」という。）を策定し、教育の振興に取り組んできました。

第1期計画の計画期間である10年間、「夢・生きがい・誇りを育む 瑞浪の教育」を基本理念に掲げ、様々な施策の取組みを実施しました。

国においては、令和5年（2023年）6月に第4期教育振興基本計画が閣議決定され、岐阜県においても、令和6年（2024年）3月に新たな第4次岐阜県教育ビジョンが策定されます。

現在の社会情勢においては、少子高齢化やグローバル化、急速な技術革新と相まって、地球規模の課題への取組みであるSDGsの推進、新型コロナウイルス感染症の影響による社会活動の低迷からの回復など、人々の生活に影響を及ぼす多くの課題が山積しています。

また、教育を取り巻く環境も大きく変わり、学校教育においては、新しい学習指導要領の実施やGIGAスクール構想の推進など、大きな流れの中での対応が求められています。

こうした社会の急速な変化や諸問題に対応し、市民のみなさんが「夢・生きがい・誇り」をもって生活できる社会の実現のため、本市の教育が果たす役割は重要です。

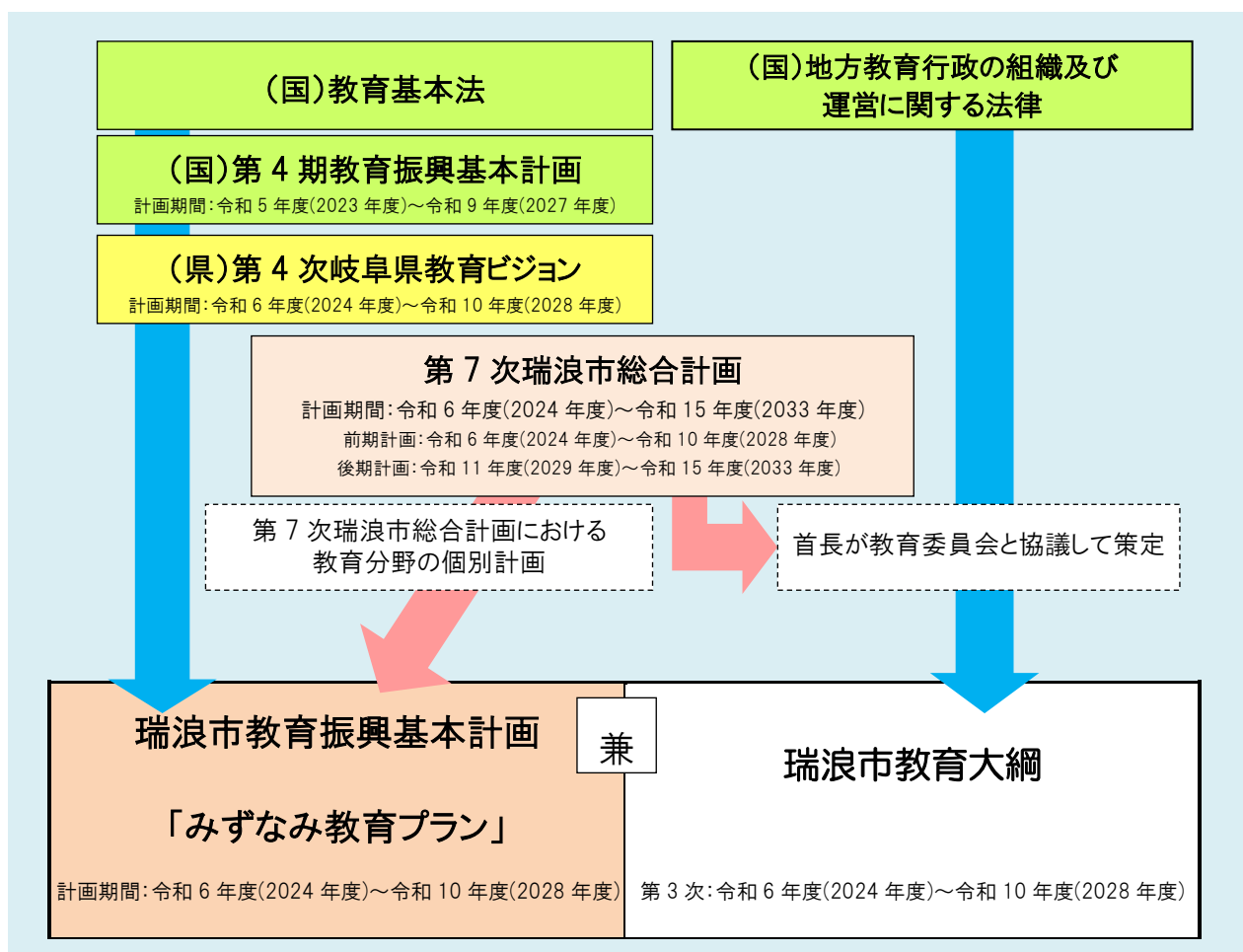
瑞浪市教育委員会では、第1期計画が令和5年度で終了することから、これらの社会情勢や国、県の施策を反映した令和6年度を初年度とする新たな、「第2期教育振興基本計画」を策定しました。

なお、近年の急速な社会情勢、教育環境を取り巻く変化に対応するため、第2期計画は、計画期間を5年計画とし、柔軟な教育行政を推進することとします。

## 2 計画策定の位置づけ

瑞浪市における教育の振興のための施策に関して基本的な事項を定めるものであり、「第7次瑞浪市総合計画」における教育分野の個別計画として位置付けます。

また、平成27年（2015年）の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、各自治体の首長は総合教育会議において教育委員会と協議し、「教育大綱」を策定することとなりました。本市では教育大綱を本計画の基本理念及び基本目標として位置付け、両者を一体的に策定することで、教育施策のさらなる充実を図ります。



## 3 計画期間

計画の期間は、令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）までの5年間です。



## 4 SDGsの取り組み

平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」において、2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す国際社会全体の目標として「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」が掲げられ、17の目標が設定されています。

グローバル化の進展に伴い、国境を越えた交流がますます拡大している中で、日本の文化やふるさとの歴史を大切にしつつ、多様な考えや文化についての理解や、コミュニケーション能力の育成などが求められています。本計画においてもこの理念を踏まえた事業の展開が求められています。

### ■ SDGs17の国際目標







## 第2章

# 瑞浪市の教育における現状と課題



## 第2章 瑞浪市の教育における現状と課題

### 1 教育における現状

#### (1) 就学前教育・学校教育

##### ① 公立幼稚園の状況

市内には公立幼稚園が8園あります。園児数は次に示すとおりです。

##### ■ 公立幼稚園

(人)

幼稚園名	所在地	R 5年度園児数		
		保育部	教育部	合計
陶幼稚園	陶町	27	6	33
稲津幼稚園	稲津町	69	17	86
みどり幼稚園	下沖町	139	35	174
桔梗幼稚園	土岐町	75	25	100
竜吟幼稚園	釜戸町	35	6	41
日吉幼稚園	日吉町	24	5	29
一色幼稚園	寺河戸町	86	20	106
瑞浪幼稚園	北小田町	110	38	148
合計	-	565	152	717

※園児数は、令和5年5月1日現在3歳児以上の人数

##### ② 公立小中学校の状況

市内には、公立小学校が7校、公立中学校が3校あります。児童生徒数は次に示すとおりです。

##### ■ 公立小学校

(人)

小学校名	所在地	R 5年度児童数
瑞浪小学校	北小田町	756
土岐小学校	土岐町	317
陶小学校	陶町	67
稲津小学校	稲津町	199
明世小学校	明世町	193
日吉小学校	日吉町	76
釜戸小学校	釜戸町	71
合計	-	1,679

※令和5年度(2023年度)学校基本調査より

##### ■ 公立中学校

(人)

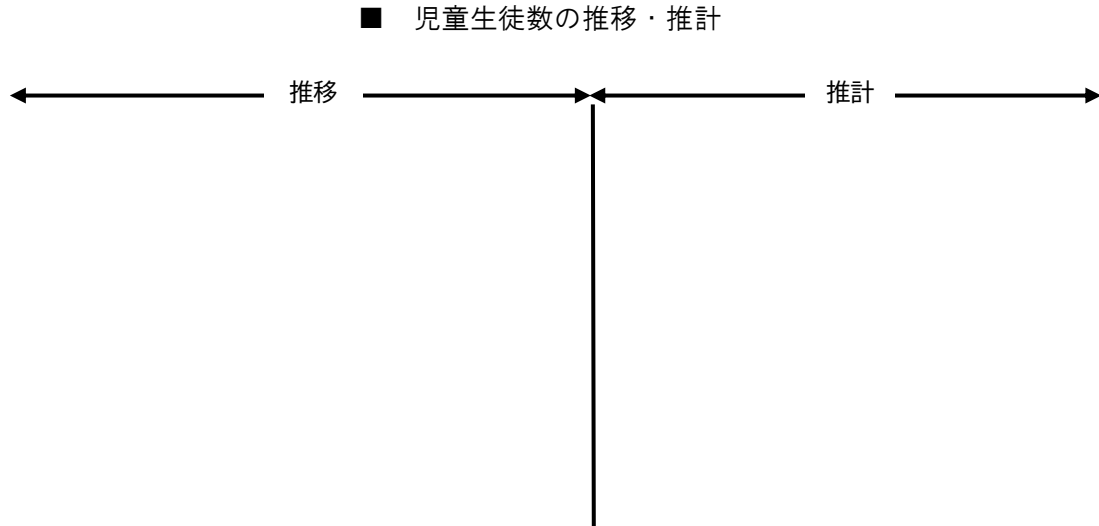
中学校名	所在地	R 5年度生徒数
瑞浪中学校	土岐町	333
瑞浪南中学校	稲津町	132
瑞浪北中学校	土岐町	337
合計	-	802

※令和5年度(2023年度)学校基本調査より



### ③児童生徒数の推移

令和5年度の小学校児童数は、前年度比43人減の1,679人、中学校生徒数は、前年度比4人減の802人となっています。その後児童生徒数は減少し、令和11年度の推計値では、小学生児童数は1,389人、中学校生徒数は793人を見込んでいます。



※R6年度以降は、出生数等をもとにした推計値

### ④不登校児童生徒出現率の推移

不登校児童生徒出現率は年度による変動はありますが、増減を繰り返しながら推移しています。

■ 不登校児童生徒出現率の推移

## ⑤いじめについて

いじめ認知件数は、小中学校ともに令和元年度に多くなり、その後増減を繰り返しながら推移しています。

## ■ いじめ認知件数

(件)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	18	17	37	22	38	37
中学校	17	76	90	37	66	38
合計	35	93	127	59	104	75

いじめの解消率※は次に示すとおりです。

## ■ いじめの解消率

(%)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
解消率	74	77	83	81	87	80

※いじめの解消率とは、いじめ事案について、各校がいじめであると判断し対応した事案について、具体的な内容や取組・解消状況について報告を受け、その報告をもとに年度末に集計

## (2)社会教育

## ①公民館講座等の状況

令和4年度の公民館講座数は141件、参加者数は7,259人となっています。

## ■ 公民館講座数及び受講者数

上段：(件) 下段：(人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
講座数	118	122	136	89	115	141
参加者数	16,113	16,585	13,805	4,546	5,668	7,259

## ②公民館の利用状況

令和4年度の利用者数は93,766人となっています。

## ■ 公民館利用者数の推移

(人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中央公民館	94,608	94,739	78,385	26,831	29,588	31,571
陶公民館	22,973	21,077	19,516	6,628	15,704	12,679
稲津公民館	42,919	41,289	36,308	17,259	17,838	25,048
日吉公民館	10,060	11,956	11,027	3,898	7,341	7,314
釜戸公民館	26,767	29,947	21,546	9,496	10,859	12,999
大湫公民館	4,888	3,540	4,371	1,818	2,461	2,326
合計	202,215	202,548	171,153	65,930	83,791	93,766



### ③市民図書館の利用状況

市民図書館の貸出冊数は、令和2年度に大きく減少しましたが、その後徐々に増加傾向にあります。蔵書冊数は、令和4年度で前年度比2,296冊減の193,736冊となっています。

■ 市民図書館の貸出冊数・蔵書冊数

## (3)生涯スポーツ

## ①体育関連施設の利用状況

利用者数は施設により増減幅に差があります。全体としては、市民アーチェリー場を除く施設で令和2年度に大きく減少しましたが、その後徐々に増加傾向にあります。

## ■ 体育関連施設の利用者数の推移

(人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
市民体育館	110,001	106,939	91,453	26,078	32,005	52,714
市民野球場	6,824	10,120	11,428	5,326	4,024	6,363
樽の上野球場	6,793	6,915	7,885	2,360	1,478	2,578
市民競技場	7,053	4,499	8,269	5,459	4,194	8,463
市民テニスコート	32,351	29,756	25,475	13,348	16,764	23,329
市民アーチェリー場	198	17	40	54	130	98
市民弓道場	6,425	7,478	6,416	3,059	4,424	5,829
日吉スポーツ施設	13,705	13,237	12,718	9,791	9,250	16,337
学校開放(体育館)	102,808	98,791	99,681	60,146	56,427	134,127
合計	286,158	277,752	263,365	125,621	128,696	249,838

※狭間川テニスコートの利用者数は、市民テニスコートに含む

## ②スポーツ少年団の状況

令和4年度のスポーツ少年団の登録団数は14団体となっています。令和4年度の登録人数は272人となっています。令和4年度の登録指導者数は55人となっています。

## ■ スポーツ少年団の登録団数、登録人数、登録指導者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録団数(件)	19	20	20	19	15	14
登録人数(人)	400	427	406	318	277	272
男性(人)	234	279	259	215	181	175
女性(人)	166	148	147	103	96	97
登録指導者数(人)	83	83	71	84	64	55

## (4)文化・芸術・文化財

## ①教育関連施設の利用状況

利用者数は施設により増減幅に差があります。全体としては、令和2年度に大きく減少しましたが、その後増減を繰り返しながら推移しています。

## ■ 教育関連施設の利用者数の推移

(人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
化石博物館	25,378	26,503	26,471	17,236	21,361	24,666
陶磁資料館	9,173	6,947	6,366	3,200	5,505	3,475
市之瀬廣太記念 美術館	6,037	6,830	6,306	2,542	4,977	3,034
地球回廊	32,917	30,133	31,564	25,890	—	—
自然ふれあい館	8,774	9,896	10,126	3,251	4,871	11,826
総合文化センター 文化ホール	42,132	45,431	37,561	10,959	11,158	7,037
総合文化センター 展示室	10,769	10,649	7,481	4,658	6,272	1,496
合計	135,180	136,389	125,875	67,736	54,144	51,534

## ②指定文化財・天然記念物の状況

国指定文化財は名勝天然記念物・天然記念物・史跡があわせて4件指定されています。県指定文化財は17件、市指定文化財は73件、国登録有形文化財は11件となっています。

## ■ 国・県指定文化財・天然記念物

(件)

国指定文化財			県指定文化財	市指定文化財	国登録有形文化財
名勝天然記念物	天然記念物	史跡			
1	2	1	17	73	11

※令和5年●月●日現在

## 2 市民意識調査結果

本調査は、教育や生涯学習、文化・スポーツ活動等に対する市民の意識を把握し、「第2期瑞浪市教育振興基本計画」を策定していくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

### (1)調査対象・回収等

調査対象、配布・回収方法、調査期間、配布数、回収数、回収率は以下のとおりです。

	市民向け調査	子ども向け調査	保護者向け調査	教職員向け調査
調査対象	令和4年12月1日現在、瑞浪市に在住する20歳以上の市民を無作為抽出	令和5年1月1日現在、瑞浪市に在学する全小学校5年生、中学校2年生	令和5年1月1日現在、瑞浪市に在学する全小学校5年生、中学校2年生の保護者	令和5年1月1日現在、瑞浪市内小学校・中学校に勤務する全教職員
配布・回収方法	郵送による配布・回収、Web調査併用	Web調査	学校を通じて調査、郵送による回収、Web調査併用	Web調査
調査期間	令和4年12月21日 ～ 令和5年1月31日	令和5年1月16日 ～ 令和5年1月31日	令和5年1月16日 ～ 令和5年2月17日	令和5年1月16日 ～ 令和5年1月31日
配布数(A)	1,000通	564通	564通	231通
回収数(B)	384通	522通	383通	178通
回収率(B/A)	38.4%	92.6%	67.9%	77.1%

#### ①教育に関する市民向け調査結果

##### ■ 回答者の属性 性別

##### ■ 回答者の属性 年齢

■ 子どもたちへの教育における課題

○教育についての課題をみると、「いじめ・不登校等の未然防止と早期対応」(47.4%)、「基本的な生活習慣やマナーの定着」(44.8%)の割合が高くなっています。

■ 子どもたちになってほしい姿

○瑞浪市の子どもたちが、どのような子どもになってほしいと思うかをみると、「自ら考え、判断できる力がある」(61.2%)が最も高く、次いで「思いやりの心がある」(45.1%)、「社会生活に必要なルールやマナーを身につけている」(43.2%)となっています。



■ 「就学前教育」を充実させるために力を入れるべきこと

- 「就学前教育」を充実させるために、今後、市が力を入れるべきであると思うものをみると、「安全・安心な施設の整備」(41.7%) が最も高く、次いで「家庭、地域が一体となって子どもの教育に取り組む環境づくり」(38.8%)、「就学前教育に携わる職員の指導力の向上」(34.9%) となっています。

■ 「学校教育」を充実させるために力を入れるべきこと

- 「学校教育」を充実させるために、今後、市が力を入れるべきであると思うものをみると、「いじめの未然防止や早期発見・解決」(40.6%)が最も高く、次いで「教師の指導力の向上」(30.2%)、「一人一人の特性に応じた指導の充実」(26.0%)となっています。



■ 「家庭の教育力」をより高めるために力を入れるべきこと

- 「家庭の教育力」をより高めるために、どのような取り組みが必要であるかをみると、「子どもと保護者が十分に話したり、ふれあったりする時間をつくる」(45.1%)が最も高く、次いで「子どもの教育や子育てについて気軽に相談できる場を設ける」(41.1%)、「子どもにしつけやマナーを身につけさせる」(33.9%)となっています。





■ 「地域の教育力」をより高めるために力を入れるべきこと

- 「地域の教育力」をより高めるために、どのような取り組みが必要であるかをみると、「地域ぐるみで子どもが安全・安心に遊べる環境をつくる」(36.2%)が最も高く、次いで「地域の子どもに関心をもち、ほめたり、注意したりする」(31.0%)、「地域の子どもに日頃から声をかける」(30.2%)となっています。



■ この1年間に、生涯学習に取り組んだことがあるか

○生涯学習に取り組んだことがあるかをみると、「生涯学習に取り組んだことがない」(40.9%)が最も高くなっています。

○取り組んだことがない理由をみると、「忙しくて時間がない」(40.1%)が最も高くなっています。



■ この1年間に、継続して公民館を利用したことがあるか

- 1年間に、継続して公民館を利用したことがあるかについてみると、「ある」が13.3%、「ない」が81.0%となっています。
- 「ある」と回答した方の公民館を利用する目的についてみると、「団体やサークルの活動」(49.0%)が最も高く、次いで「公民館主催の講座・教室」(45.1%)となっています。



【公民館を利用する目的】

■ 市民が学びたいときに学べるようにするために力を入れるべきこと

- 学びたいときに学べるようにするために、今後、市が力を入れるべきであると思うものをみると、「講座・教室の開催内容の充実」(33.9%)が最も高く、次いで「学習施設の利用手続きの簡素化」(26.6%)、「講座・教室に関する情報提供」(25.5%)となっています。



■ 日頃からスポーツを行っているか

- 日頃からスポーツを行っているかについてみると、「行っていない」(52.1%)が最も多く、次いで「週2～5回程度」(10.9%)、「月に1～3回程度」(9.9%)、「週1回程度」(9.4%)となっています。
- 「行っている」と回答した方がどのようなスポーツを行っているかをみると、「ウォーキング」(50.0%)が最も高く、次いで「ゴルフ」(23.3%)となっています。

【行っているスポーツ】

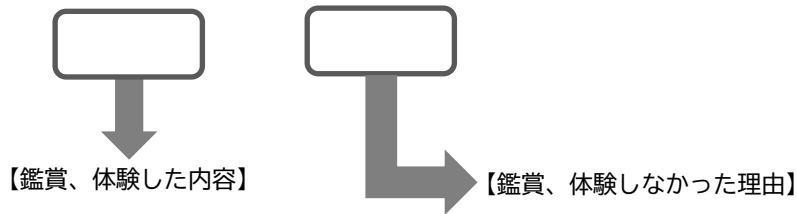
■ 市民がスポーツに親しみやすくするために力を入れるべきこと

- 市民がスポーツに親しみやすくするために、今後、市が力を入れるべきであると思うかをみると、「スポーツ施設の充実」(32.0%)が最も高く、次いで「スポーツ教室や交流会の充実」(24.7%)、「スポーツに関する情報提供」(19.5%)となっています。



■ 1年間に文化・芸術・文化財を鑑賞、体験したことがあるか

- 過去1年間に、文化・芸術・文化財を鑑賞、体験したことがあるかについてみると、「ある」が32.8%、「ない」が62.0%となっています。
- 「ある」と回答した方が鑑賞、体験した内容についてみると、「美術」(37.3%)が最も高く、次いで「映画・漫画・アニメーション」(36.5%)、「音楽」(34.9%)、「歴史的な建物や遺跡、文化財」(31.7%)となっています。
- 「ない」と回答した方の鑑賞、体験しなかった理由をみると、「忙しくて時間がない」(32.8%)が最も高く、次いで「特に理由はない」(18.9%)、「必要な情報が入手できない」(17.2%)、「きっかけがつかめない」(16.4%)となっています。



■ 「文化・芸術振興」のために力を入れるべきこと

- 「文化・芸術振興」のために、今後、市が力を入れるべきであると思うものについてみると、「郷土遺産に触れる機会の充実」(23.4%)が最も高く、次いで「文化・芸術に関する情報提供」、「図書館の機能や設備の充実」(各22.1%)、「文化財の調査と保存」(21.9%)、「文化財の公開や有効活用」(21.4%)となっています。



## ②教育に関する子ども向け調査結果

### ■ 学校であった出来事を家族と話をするか

○学校であった出来事を家族と話をするかについてみると、「よくする」(49.0%)が最も高く、次いで「ときどきする」(35.4%)、「あまりしない」(10.5%)となっています。

### ■ 運動することが好きか

○運動することが好きかについてみると、「好き」(49.6%)が最も高く、次いで「どちらかといえば好き」(22.0%)となっています。

### ■ 平日1日にどれくらい、テレビゲームをするか

○平日1日にどれくらいテレビゲームをするかについてみると、「1時間以上2時間より少ない」(28.5%)が最も高く、次いで「3時間以上」(24.1%)、「2時間以上3時間より少ない」(23.6%)となっています。



■ 地域の大人は見守ってくれていると感じるか

○あなたが住んでいる地域の大人は、あなたを見守ってくれていると感じるかについてみると、「感じる」(45.0%)が最も高く、次いで「ときどき感じる」(33.5%)となっています。

■ 心配事や悩み事があるとき、誰に相談するか

○心配事や悩み事があるとき、誰に相談するかについてみると、「家族」(49.4%)が最も高く、次いで「友達」(31.2%)、「誰にも相談したくない」(12.6%)となっています。

■ 瑞浪市を「ふるさと」と感じるか

○瑞浪市を「ふるさと」と感じるかについてみると、「感じる」(46.0%)が最も高く、次いで「どちらかといえば感じる」(32.0%)、「どちらでもない」(15.1%)となっています。



### ③教育に関する保護者向け調査結果

#### ■ 回答者の属性 性別

#### ■ 学習塾に通わせているか

○お子さんを学習塾に通わせているかについてみると、「現在通わせている」(49.6%)が最も高く、次いで「一度も通わせなかったことがない」(35.2%)となっています。

#### ■ どれくらい会話をするか

○お子さんとの会話についてみると、「毎日会話をしている」(84.6%)が最も高く、次いで「顔を合わせれば会話をしている」(13.3%)となっています。

■ 子育てについての悩みはあるか

○子育てについての悩みについてみると、「特にない」(22.2%)が最も高く、次いで「学校の成績」(18.8%)、「子どもの進路」(13.8%)となっています。

■ 学校の情報を保護者や地域に提供していると思うか

○学校の情報を保護者や地域に提供していると思うかについてみると、「ある程度は提供している」(61.1%)が最も高く、次いで「よく提供している」(23.0%)となっています。



■ 学校に期待する教育や指導

○学校に期待する教育や指導についてみると、「学ぶ楽しさや喜びを通して学習意欲を高める」(37.9%)が最も高く、次いで「人権を尊重する心や他人を思いやる心を育む」(18.3%)、「社会のルールやモラルを守る心を育む」(10.7%)となっています。

■ 地域の行事に子どもと一緒に参加しているか

○地域の行事に子どもと一緒に参加しているかについてみると、「参加している」が83.5%（「よく参加している(47.5%)」、「ときどき参加している」(36.0%)）となっています。

■ 生涯学習の活動をしているか

○生涯学習の活動をしているかについてみると、「している」が15.7%、「以前はしていたが、今はしてない」が12.8%、「したことがない」が70.8%となっています。

④教育に関する教職員向け調査結果

■ 回答者の属性 性別

■ 回答者の経験年数 年齢

■ 勤務について、忙しいと感じているか

○勤務について、忙しいと感じているかについてみると、「時期によって忙しい」(64.0%)が最も高く、次いで「常に忙しい」(30.9%)、「あまり忙しくない」(5.1%)となっています。



■ 多忙を解消するために必要なこと

- 多忙を解消するために必要なことについてみると、「教職員数を増やし、仕事を分担するなど個々の教員の仕事を減らす」(90.4%)が最も高く、次いで「事務関係の書類の提出を少なくする」(62.9%)、「ICTの活用で校務の効率化を図る」(27.5%)となっています。

■ 児童生徒が学校に通うことを楽しいと感じていると思うか

- 勤務している学校の児童生徒が学校に通うことを楽しいと感じていると思うかについてみると、「多くの児童生徒が楽しいと感じていると思う」(68.5%)が最も高く、次いで「ほとんどの児童生徒が楽しいと感じていると思う」(25.8%)となっています。

■ 保護者との対応で今現在悩んでいるか

- 保護者との対応で今現在悩んでいるかについてみると、「あまりない」(44.9%)が最も高く、次いで「ある程度ある(対応できる範囲)」(38.2%)となっています。

■ 学校教育で重点的に取り組むべき項目

- 学校教育ではどのようなことを重点的に取り組むべきだと思うかについてみると、「基礎的な学力を身につけさせること」(73.0%)が最も高く、次いで「相手を思いやる気持ちや道徳心を育むこと」(58.4%)、「集団の一員として、より良い関係を築ける力を身につけさせること」(54.5%)となっています。



■ 今後の教育環境の変化に対応していくために取り組むべき事柄

- 将来的な子どもの減少などによる今後の教育環境の変化に対応していくため、どのようなことに取り組むべきだと思うかについてみると、「教員や支援スタッフの人的配置の充実」(84.8%)が最も高く、次いで「児童生徒数が適正な規模の学校づくり」(55.6%)、「ICT教育推進のための情報機器の充実」(26.4%)、「スクールソーシャルワーカーの充実」(23.0%)となっています。

■ 地域と家庭、学校との連携・協力体制が整っていると思うか

- 地域と家庭、学校との連携・協力体制が整っていると思うかについてみると、「整っていると思う」(76.4%)が最も高く、次いで「よく整っていると思う」(12.4%)となっています。



### 3 教育に関する団体ヒアリング

市内で活動している教育関連の団体を対象に、日頃活動を行う中で感じている課題、主に子どもたちの教育に対する今後の課題等を把握するためにヒアリング調査を実施しました。

#### (1) 調査概要

調査対象：幼稚園園長会、小学校・中学校校長会、幼稚園保護者会、PTA連合会、学校運営協議会、青少年育成市民会議理事会、社会教育委員、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会、文化財審議会委員、図書館協議会

調査方法：ヒアリングシート配布・回収、対面

調査期間：令和5年2月～3月

#### 【就学前教育における課題】

- 教師と保育士の相互理解に向けた交流の機会を再開
- 専門的な職員研修の充実（保育士としての資質向上）
- 家庭の教育力支援

#### 【学校教育における課題】

- 不登校、不登校傾向の子どもが増加しており、対応するのに多くの時間を費やしている
- 発達障がいをかかえる児童生徒が多様な要因で急増しており、より充実した支援を行えるような指導・体制の充実
- 教員の数の確保
- 教職員の「働き方改革」の推進が、主に勤務時間の削減として進められてきているが、それに伴い、研修など教師の指導力向上の機会の減少などなどの課題点も出ている
- 将来、児童数がますます減少するにつれ、役員等を担う人材不足やコミュニティ・スクールに関わっている地域の人材も減少・高齢化が予想される。地域との連携を大切にした教育活動が持続していけるか
- 中学校では部活動への全員参加がなくなり、運動会・体育祭のあり方も含め、「競う」ことが希薄になっている
- 一人一人の能力に応じた学習の推進。学習能力の高い子どもにはそれに応じた教育が必要
- コロナによる活動の制限がなくなる中、どれだけの活動や行事を元に戻すのかを慎重に考える必要がある
- 中学校にテニス部がなく、小学校でテニスをやっても中学進学でテニスを断念する子どもたちがいる

### 【社会教育における課題】

- コミュニティ・スクールやまちづくりなど地域での実体験がない人は、議論に参加しづらい
- 生涯学習をもっと積極的に推進してほしい
- 公民館講座の充実を図るために、金銭的なサポートが必要

### 【生涯スポーツにおける課題】

- 団の登録に必要な資格指導者の登録料や資格更新料、資格取得のための講習の受講料などの負担が制度改変によって増したこともあり、指導者の減少につながっている
- 数年前より町の体育委員会という組織がなくなったことで町のスポーツ推進委員として関わる場所がなくなり、まちづくり、公民館活動の中では動きづらい状況になっている
- 人口の少なさで大人数のスポーツは難しく、興味や年齢等の関係で人集めは難しい
- 少子高齢化でチーム数が減少、団体競技は人数、日程が困難になって試合ができない

### 【文化・芸術・文化財における課題】

- 人口減少、高齢化により、地域で継承されてきた伝統文化（有形・無形）の保存が、地域だけでは難しくなるのではないか
- コロナ禍の影響により活動が休止している団体がある。活動の中心が高齢者であることから、3年の空白は再開に向けて大変大きな影響がある
- 以前と比べて色々な文化財の調査や保存等に配慮がなされていると思うが、調査や指定後のアフターケアが少ない

### 【子どもの読書習慣の育成や読書環境の充実における課題】

- 年3回「家族ふれあい2週間」として絵本の読み聞かせを勧め、その大切さを手紙で配布している。70～80%の家庭に参加・協力していただけるが、残りの20～30%の家庭に協力していただけるための啓発・取り組みが課題
- 子どもへの読み聞かせの機会は大切だと思う。親が子どもに読んで聞かせる時間も作ることで、読むことの意義、大切さ等を親に感じてもらえるのではないか
- タブレットやスマートフォンが当たり前の存在として子どもたちにある中、読書習慣、本に向かう時間をどう子どもたちに持ってもらおうか
- 市民図書館は幼児園から歩いて行ける距離ではないこともあり、市民図書館との関わりがなかなか持てない

- 公民館活動と市民図書館活動とが連携し、読み聞かせ、ブックトーク、リサイクル本等の機会を設け、子どもの読書週間の育成を図っていくことが必要
- 駅北複合公共施設については全く知らないという地域住民が多い

#### 【コミュニティ・スクールに関して課題】

- 将来の地域を担う子どもを育てるという気持ちと当事者意識をもって地域住民、保護者、全教職員が一体となり、コミュニティ・スクール活動を推進していく必要がある
- 地域に対する知名度、理解度が低いので、市報などでのPRが必要
- コミュニティ・スクールと、地域学校協働活動のすみわけ、バランスを周知していく必要がある
- 小学校が先行して実施しているが、中学校のコミュニティ・スクールは小学校とは大きな違いがあることを学校運営協議会、地域に浸透させていくことが必要
- 小学校で活動が始まったが、幼稚園も関わらせてほしい
- 各地域で実施されているコミュニティ・スクールの取り組み内容を情報公開し、情報の共有ができるとうよい

#### 【コロナ禍での活動においての変化】

- コロナ禍で、子どもの育ちの課題が変わってきた。実体験や人とのコミュニケーションの経験不足や体力の低下、異年齢との交流、地域の方達との交流など、育ちに必要とされる教育保育活動を見直したい（幼稚園園長会）
- コロナ禍の対策として、オンライン会議や紙面での決裁などが行われたが、教員のスリム化にもつながっている。すべてコロナ前に戻すのではなく、簡略化できることはなにかを見極めて市や学校が対応していくことが必要。また、学校不適應（不登校など）が増えている。児童生徒のアセスメントの機会を増やし、市域全体での不適應未然防止教育を進めたい（小学校・中学校校長会）
- コロナの症状、後遺症などは心配だが、現在の症状は流行当初とはかなり違う。子どもの10年後、20年後の人格形成や発達の上からもマスク着用・黙食などは、早い段階で解除していくべき。特に幼児期は発達上（人の顔を見て表情や口元を見て話すこと）とても重要（幼稚園保護者会）
- 毎年7月に行っている教育講演・懇談会は、懇談会を中止にし、教育講演会のみを実施（PTA連合会）
- コロナ禍で人関係が薄れる中、団体行動の重要性、相互協力の必要性を再認識する教育が必要（学校運営協議会）
- 講演会はWEB配信になり、対面で開催をしても通常より参加者が少なかった（青少年育成市民会議理事会）

- 選手や保護者が以前以上に健康に気を配るようになった。予防を実践する習慣がついた。一方、大会、講習会の中止が続き、他地区の会員との交流がなくなった（体育協会）
- 使用施設や用具の消毒、体調・体温のチェックなど、指導者や保護者の当番等の負担が大きい（スポーツ少年団）
- ホームページで活動をしたが、高齢者はホームページまでたどりつけない（スポーツ推進委員会）
- 活動回数がやや減少したものの、活動内容に大きな変化はない（文化財審議会委員）

#### 【瑞浪市の教育についての意見】

- 保護者の方に幼児教育（育ち・成長発達）の大切さを分かってもらえるように、市として、分かりやすく教育の大切さを発信する必要がある（幼稚園園長会）
- コロナ禍で、園や学校の生活が見えにくくなった。人や備品を確保して、動画配信や行事の持ち方などを改善してほしい（幼稚園保護者会）
- コロナ禍の影響もあり、不登校児童生徒が急激に増加している。不登校の児童生徒に対して、市としての対応策を早急に考え、実施してほしい。学校だけに対応を任せるのではなく、不登校の児童生徒の保護者も含め、支援できる環境をさらに整えてほしい（PTA連合会）
- 地元を離れた後も地元を愛し続ける教育が必要。大切な尊い命を自ら断つことや、いじめの問題にしっかりとした対応を考える必要がある（学校運営協議会）
- 各学校の在籍児童生徒が急激に減少する中で、今までのように地域の学校と地域がつながった活動ができにくくなってきている。例えば、地域行事への児童生徒のボランティア参加が人数の減少で厳しくなっている地区がある（青少年育成市民会議理事会）
- 多様性に合わせた学びの提供をしてほしい（社会教育委員）
- 学校、家庭、地域が一体となり子どもの教育に取り組んでほしい（体育協会）
- 小学生のスポーツ活動のみならず、中学生のスポーツ・部活動を含め、コロナ禍を契機に大きな転換期にある。今後の方向性や対応を市として考えていく必要がある（スポーツ少年団）
- コミュニティ・スクールの実施により地域への依存傾向が強くなってきている（スポーツ推進委員会）
- 「瑞浪市ならではの文化」を肌で感じ、その素晴らしさを自分の言葉で発信できる子どもたちであってほしい。そのためには、陶磁資料館をはじめ、化石博物館、市之瀬美術館の3館がさらに「体験的な学習」を発展させてほしい（文化財審議会委員）

## 4 教育における課題

### (1) 学校教育・就学前教育

#### 課題1 いじめの未然防止・早期発見・早期対応

市民アンケートにおいて、「学校教育」を充実させるために今後、市が力を入れるべきであるものについてみると、「いじめの未然防止や早期発見・早期解決」が上位に位置づけられおり、年代別でも全ての年代において上位に位置付けられる結果となっています。

いじめのない学校づくりを目指して、真摯に取り組むことが必要です。

#### 課題2 一人一人の実態に応じた適切な指導・援助の充実

市民アンケートにおいて、今後、市が力を入れるべき施策についてみると、「一人一人に応じた支援の充実」が上位に位置づけられおり、年代別では特に20歳代で高い結果となっています。

不登校児童生徒の支援や特別支援に対する多様な教育ニーズへの対応が必要です。

#### 課題3 確かな学力の向上

市民アンケートにおいて、今後市が力を入れるべき施策についてみると、「子どもの確かな学力の向上」が上位に位置づけられています。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的推進による、質の高い学びを実現や外国語によるコミュニケーションを図るための資質・能力の育成が必要です。

また、「学校教育」を充実させるために、今後、市が力を入れるべきであるものについてみると、「教師の指導力の向上」が2番目に多い結果となっています。

教員研修の充実と、教員が授業に専念できる環境の整備を進めることが必要です。

#### 課題4 就学前教育の充実

市民アンケートにおいて、今後市が力を入れるべき施策についてみると、「就学前教育の充実」が上位に位置づけられており、特に30代、40代で高い結果となっています。

小学校教育との円滑な接続や幼小中の連携が必要です。

#### 課題5 学校給食・食育の充実

市民アンケートにおいて、今後市が力を入れるべき施策についてみると、「栄養バランスのとれた給食の提供」が上位に位置づけられています。

継続して、安全・安心な給食の提供が必要です。

#### 課題6 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

市民アンケートにおいて、子どもたちへの教育において、何が課題であるかについてみると、「家庭・地域・学校の連携の強化」が、今後市が力を入れるべき施策として重要視されています。

中でも、「就学前教育」を充実させるために今後、市が力を入れるべき施策として、「家庭、地域が一体となって子どもの教育に取り組む環境づくり」が70歳以上の約半数が重要施策だと感じている結果となっています。

全ての公立小中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを進めていくことが必要です。

#### 課題7 安全・安心な学校施設の整備

市民アンケートにおいて、今後市が力を入れるべき施策についてみると、「安全・安心な学校施設の整備」が上位に位置づけられています。

中学校の耐震化、空調整備、トイレの洋式化・乾式化について順次進めてきました。今後、老朽化した校舎について、改修を行う中で、バリアフリー化や、環境配慮の仕組みの導入などについても検討していく必要があります。また、学校における安全教育の取組をすることが必要です。

## (2)社会教育

### 課題1 生涯学習に取り組むきっかけづくり

市民アンケートでは、この1年間に生涯学習に取り組んだことがないと回答した人が40.9%を占めています。取り組んでいない理由をみると、「忙しくて時間がない」(40.1%)が最も高く、次いで「きっかけがつかめない」(19.7%)、「特に理由はない」(17.2%)の割合が高くなっています。保護者アンケートにおいても、生涯学習の活動をしたことが「ない」「今はしていない」を合わせると83.6%と大多数を占めており、自主的な活動を行わない理由をみると、「時間的に余裕がない」(58.8%)が最も高く、次いで「情報がない、入手の方法がわからない」(27.8%)となっています。

市民の多様なニーズに対応した学習機会を提供できるよう、生涯学習講座等の内容の充実化を図るとともに、多くの人の興味関心を得ることができるよう、開催情報や生涯学習の魅力を効果的に発信することが必要です。

### 課題2 家庭教育の充実と青少年の健全育成

近年、少子化、核家族化、共働き世帯の増加など、家庭をめぐる状況の変化に伴い、家庭の教育力の低下が懸念されています。児童虐待相談件数の急速な増加などの家庭をめぐる問題が複雑化する中、社会全体で家庭における教育力の充実を図っていくことが求められています。そして、地域が、積極的に児童生徒及び青少年を育てるという姿勢にたち、豊かな心の育成や心身の成長へとつなげていくことが必要です。

### 課題3 児童生徒と地域とのつながり強化

就学前教育・学校教育の課題6でも整理しているように、児童生徒と地域とのつながりを作り、強化していくことが必要です。

### (3)生涯スポーツ

#### 課題1 スポーツの場の充実

スポーツ施設の利用満足度の市民アンケート結果では、施設自体を「知らない」、「利用したことがない」との回答が、瑞浪市民体育館は51.3%と約半数を占め、アーチェリー場、弓道場では80%を超えています。スポーツ教室などのイベントや、スポーツ施設についての情報発信を行い、スポーツおよびスポーツ施設への関心を高めていただくことが必要です。

#### 課題2 スポーツ教室・交流会の充実・スポーツをする機会の情報提供

「市民がスポーツに親しみやすくするために、今後、市が力を入れるべきであると思うもの」とのアンケート結果では、「スポーツ教室や交流会の充実」が24.7%、「スポーツに関する情報提供」が19.5%と比較的多い状況です。スポーツ教室等の充実・情報提供に努める必要がありますが、開催に際しては参加者や施設利用者の声を吸い上げ、各公民館事業等と重ならない内容の検討が必要です。またSNS等も活用し、開催情報の発信を行っていくことが必要です。

#### 課題3 スポーツ推進委員の活用

スポーツ推進委員は、各地域や市内全域で活動を行っています。しかし、スポーツ推進委員の存在や活動内容を知らない方も多いため、活動や取組内容について、SNS等も活用しての情報発信が必要です。



## (4)文化・芸術・文化財

### 課題1 文化芸術活動団体の活動の活性化 文化芸術活動の支援

各種文化芸術活動団体については、発表機会の減少や団体構成員の減少による活動の停滞化が危惧されており、活動の活性化を図ることが課題となっています。

また、市民アンケートでは、「文化・芸術振興」のために、今後、市が力を入れるべきであると思うものについてみると、「文化・芸術に関する情報提供」が(22.1%)となっています。優れた文化芸術に触れ、気軽に親しむことができる機会の創出とともに、多くの人の興味関心を得ることができるよう、効果的に情報発信することが必要です。

### 課題2 伝統文化に触れる機会の充実

本市に残る数々の文化財を後世に伝えるために、各保存団体が文化財の保存と伝承に取り組まれています。そうした中で後継者の確保と育成という問題に直面しており、その解決のための支援が必要になっています。

### 課題3 幼稚園・学校や地域との連携

市民アンケートにおいて、学校・地域・家庭が連携協力するのに必要なことについてみると、「地域の伝統芸能・スポーツ・芸術文化活動への児童・生徒の参加促進」が(27.0%)となっています。子どもの文化芸術活動の機会を適切に確保するとともに、地域の活性化にもつなげる取り組みを支援することが必要です。

### 課題4 文化財の調査・保存

本市には、指定文化財や登録文化財を含む多くの文化財が残されており、これらは市の歴史や文化、自然などを知るための貴重な財産です。市民アンケートにおいても「文化財の調査と保存」が必要であるとの認識がある人は21.9%と比較的多い状況であり、文化財の価値を明らかにするために調査を継続・推進し、その成果を分かりやすく市民に伝えることが必要です。また、文化財を良好な状態で後世に伝えるため、文化財の保存・修理や伝承などの事業に対しての支援を充実させることも必要です。



## 課題5 文化財の活用と体制の充実

市民アンケートにおいて「文化財の公開や有効活用」や「郷土遺産に触れる機会の充実」が必要であるとの認識がある人は、21.4%、23.4%と比較的多い状況であり、見学会の開催や様々な情報発信、教育普及活動を行うなど、積極的に文化財の公開・活用を行う必要があります。また、公開・活用のためには周辺環境の整備など、定期的な管理を要する文化財もみられます。ボランティア活動などを通じてそれら管理に関わることも「郷土遺産に触れる機会の充実」に資することから、地域住民などと連携した文化財の活用体制を充実させることも必要です。

## 課題6 博物館機能の充実と学校・地域との連携

市民アンケートにおいて、「博物館機能や設備の充実」が必要であるとの認識がある人は11.2%とそれほど高くありませんが、博物館は文化財などの収集・調査・保存、また公開・活用を行う重要な拠点施設です。現在の博物館は、施設・設備に老朽化が認められるほか、バリアフリー未対応の部分もあり、古文書や彫刻など多様な文化財の展示・保存に適した施設とするためには、改修・更新を行ってそれら機能を充実させることが必要です。また、地域の文化財や自然などに関連した展覧会・講座の開催を継続するとともに、博物館と学校・地域住民・まちづくり組織などが一層の連携を図り、郷土への愛着・関心を高めることも必要です。



## 第3章

# 基本構想

## 第3章 基本構想

### 1 基本理念

#### 夢・生きがい・誇りを育む みずなみの教育

##### 【基本理念の趣旨】

次世代を担う子どもが夢に向かってたくましく生き、市民は生きがいをもって心豊かに暮らすことを通じて、市民誰もが郷土・瑞浪に誇りを感じることができる教育を推進します。

○みずなみの教育は、困難に負けず、自ら問題解決を図りながら、**夢**に向かって果敢に挑戦する子を育みます。

○みずなみの教育は、家庭や地域を大切にしながら、**生きがい**をもっていきいきと暮らす市民を育みます。

○みずなみの教育は、子どもから高齢者まで市民全員が、教育の様々な過程において、地域への愛着や**誇り**を育む教育を推進します。

## 2 基本目標

基本理念を達成するための4つの基本目標は次のとおりです。

### 基本目標1 たくましく生きる基礎を育てる学校教育・就学前教育の推進

就学前教育の質の向上、そして児童・生徒の学力や生きる力の向上に取り組むとともに、園・学校・家庭・地域が連携した教育を展開するなど、教育環境の充実を図ります。

【関連する SDGs】



### 基本目標2 ともに学び支え合う社会教育の推進

市民の多様な学習ニーズに対応した環境整備に努めるとともに、生涯学習活動のさらなる充実を図ります。

【関連する SDGs】



### 基本目標3 誰もが気軽にスポーツに親しめる生涯スポーツの推進

生涯を通じて気軽にスポーツに親しみ、継続することができるよう、スポーツ活動の普及・充実に向けた取組を進めます。

【関連する SDGs】



### 基本目標4 郷土愛を育む文化・芸術の振興

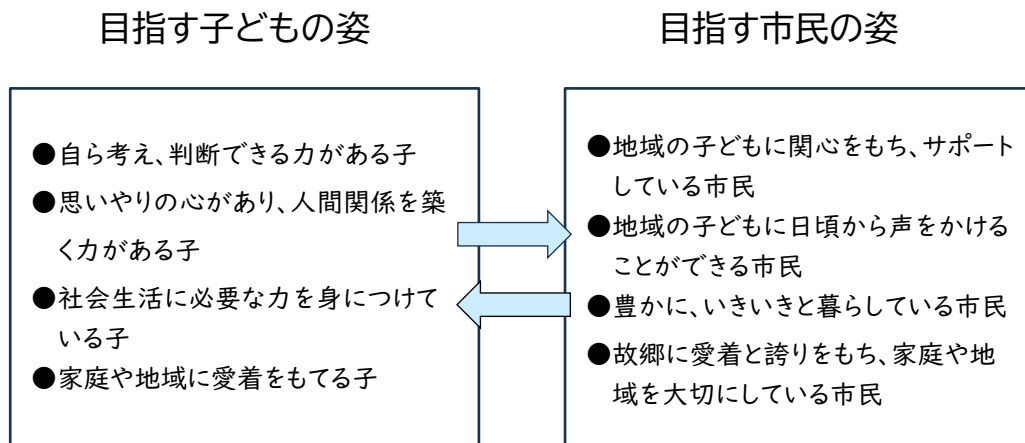
文化・芸術の振興に向けた人材育成と各種団体の活性化を図るとともに、本市文化財の適切な調査・保存・保護に努め、後世に伝えていきます。

【関連する SDGs】



### 3 目指す子どもの姿、市民の姿

目指す子どもの姿、目指す市民の姿の具体像を次のとおり定めます。



### 4 基本的視点

基本理念や基本目標を実現していくにあたり、本計画で重視する視点を次のとおり示します。

#### 【視点①】

上述の「目指す子どもの姿」の実現や、就学前・学校教育及び社会教育の充実のためには、「幼稚園・学校、家庭、地域の連携」なしには実現することはできません。本計画の全般において、「幼稚園・学校、家庭、地域が連携」していく視点を重視していきます。

#### 【視点②】

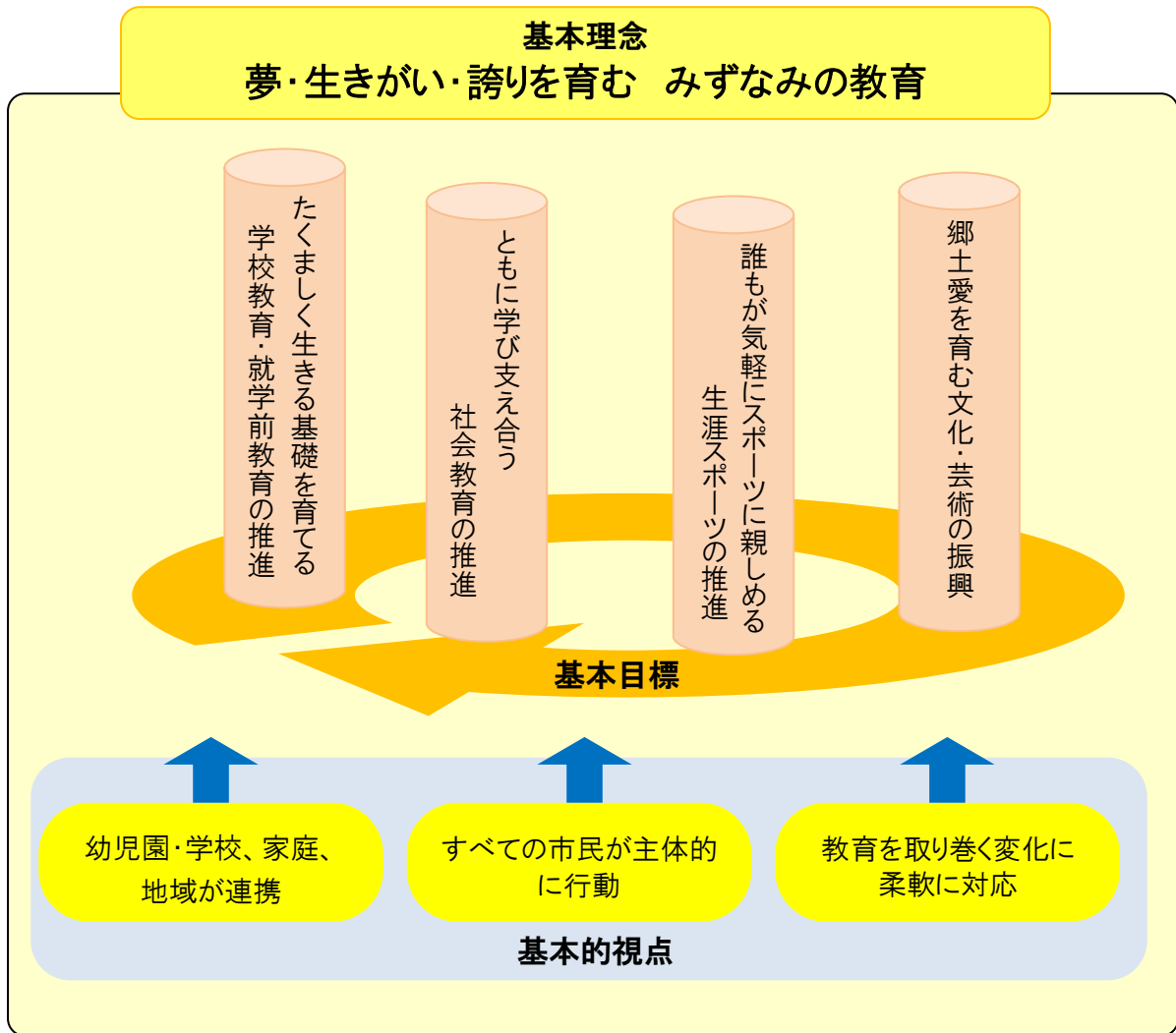
上述の「目指す市民の姿」の実現のためには、生涯学習、スポーツ、文化・芸術などに、より多くの市民が気軽に関われる環境が求められます。生涯学習、スポーツ、文化・芸術などの分野においては、「すべての市民が主体的に行動」する視点を重視していきます。

#### 【視点③】

本市の教育を取り巻く様々な社会的な変化を、受け身として捉えるのではなく、プラスの効果をもたらす機会と捉えて、「教育を取り巻く変化に柔軟に対応」する視点を重視していきます。

## 5 基本構想の概念図

「第2期教育振興基本計画 みずなみ教育プラン」における基本構想の概略図は以下のとおりです。



## 6 施策の体系

本計画の施策の体系は次に示すとおりです。

基本理念	基本目標	施策
<b>夢・生きがい・誇りを育む みずなみの教育</b>	1 たくましく生きる基礎を育てる学校教育・就学前教育の推進	1. 豊かな心の育成
		2. 一人一人の実態に応じた指導・援助の充実
		3. 確かな学力の育成
		4. 教育DXの推進
		5. 健やかな体づくりと食育の推進
		6. 学校・家庭・地域の連携・協働の推進
		7. 学校環境等の整備
	2 とともに学び支え合う社会教育の推進	1. 多世代の多様なニーズに対応した生涯学習の機会の提供
		2. 地域での子育てに係る学習環境の整備
		3. シニア世代の活躍の場づくり
		4. 地域で活躍する人材の発掘と育成
	3 誰もが気軽にスポーツに親しめる生涯スポーツの推進	1. スポーツの場の充実
		2. スポーツの機会の充実と魅力の発信
		3. スポーツ推進委員の活用
		4. 体育協会・スポーツ少年団・クラブとの連携
	4 郷土愛を育む文化・芸術の振興	1. 文化財の調査・保存・伝承等の推進
		2. 市民が歴史・文化・芸術に触れる機会の充実
		3. 文化施設の充実
		4. 文化芸術活動団体の支援